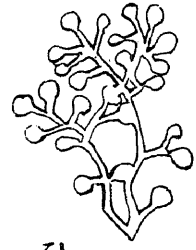

ひとりがたり

庭の巻

まあ　お庭がよくなりましたこと、又こゝで園遊會でもして頂き度うございますわ、と遠來の客に蟲のいゝことを云はれてから、氣がついて見ると、なるほど、二年前こゝでみどり會主催の園遊會のあつた時と比べて見ると、木々の成長は云はずもがな、移し植えられたとも思はれず、もつこく、ヒマラヤシーダー、つゝぢ等がすつかり地について、濃綠の茂みを增して來た。ゆかりの深い藤の木も棚にすつかりなづんで、もく〳〵と盛り上つた新葉から房々とたれた花の下で、今年は藤見の宴を催したほどの盛りであつた。やがて秋になつての藤づる藤の實が、どんなにかよい遊びになることかと、今は寸ばかりにのびた實を、見上げては樂しんでゐる。

いてふを詠む

幾世よりかくて樹ちけん古木いてふその大いさの何か尊き

見上げたる瞳に寂なり夏空に太く樹ちたる濃みどりのいてふ

荒く萌ゆる雜草の廣庭相へだて大きいてふの梢は寂けし

新庄よしこ

油蟲毛蟲受難の卷

かつてはその貧弱さを、きりぐ〳〵すの籠のようなと云はれて、今にも取り毀されそうであつたまがきの家も、このごろは細い竹にからまつたつるばら、はさやばらに飾られて、まことに趣のある遊び場と變つてしまつた。それといふのも及川さんが、こやしから油蟲退治と心をこめた丹精で斯うものびのびと育つたわけ。油蟲がうか〳〵たかつてるようものなら、デリス石鹸をシャア〳〵かけられるので、園藝用の白い手袋をはめた及川さんの姿を見ると油蟲はちぢみ上つたといふ話。

毛蟲の頃になつてキャッと聞えるのは、たかられた先生の悲鳴。ところが編輯局長小島光子さんの組の子は、さすが理科出の先生に仕込まれたゞけあつて、毛蟲を見れば櫻の木に擧ぢ登つてつかまへないと氣がすまない。この組の實習生もだんだん毛蟲が怖くなくなつたといふ。つまり毛蟲ばかりは子供から保育されたようなわけ。今年は隨分捕つたそうで、この組の子の姿が見えると毛蟲は大急ぎで逃げ出したといふ話。

白髮の卷

この家のあるじ倉橋先生も至つてお元氣で、風邪をおひきになる暇もなかつた位のお忙しさ、少し位病氣する方が高級な人間だなどゝおっしやつた事もあつたように覺えてるるが。然し爭はれないもので、この頃こんと白髮がふえて來た。おい、倉橋君は一體幾つだ、髮が黑すぎるぞッと小學校の堀先生がよく氣になさつたが、なあーに今にわかると思つてるたところ、案の定、この頃はすつかりでもないが、白い方が目につく位におなりだ。それといふのも、長男の正雄さんが大學にはいられ、つゞいて弟の文雄さんが又するつと大學生になられた。人からはらくらくと見えても容易でないのが入學試驗。それ迄のお心づかひは又格別、その試驗の前日、幼稚園の歸りに暮れてから巢鴨のとげぬき地藏尊にお詣りに行かれた程の親心。尊い白髮だと思つて拜見してるる。

實習生憤慨の卷

子供が歸つてしまつてからの保育室で、實習生がかたまつてひそ〳〵話してるる。今しがた迄こゝで塹壕を掘つて

ゐた砂場を掃きながら私は、早くお掃除しておしまひなさいなと云ふと、先生、癪にさはつた事があるんですと、四人で口を揃へて云ふ。まあ、どうしたのと箒を持つたまゝ室にはいると、あの今日Sさんがね、先生、英語で椅子の事何て云ふか知つてるかつてきくので、チェヤーと云つたら、そんな發音つてあるかい、チェアーつて云ふんだなんて、四人ともやられてしまつたので口惜しいんですといふ。その子は、そればかりでなく、英語々々で、何知つてるかかに知つてるか、知らないだらうつて威張ると云ふ。外の事なら私も、まあいゝぢやないの、ほつときなさいよと云ふ所だが、かねてからこのSの小生意氣をどうしたら直せるかと日々苦になつてゐる矢先とて、思はず話に乘り込んでしまつた。そうして、もし今度さう云つたら英語なんか知らなくたつていゝのと少し强い語氣でギュッと云つて御覽なさいと云つておいた。この四月から先生と云はれてゐる實習生が、憤慨するところが可笑しくもあり、いやに先生ぶらないで卒直なところは可愛くもあつた。然し解決のつかないのはこの子のこせ〳〵こした小才子ぶりである。どうかして少しでも男らしい豁達な子になれたらと日々努めてゐるのに、此の頃では英語を習ひに行つてゐるときく。せい〴〵砂場で、泥だらけにでもさせておくより仕方があるまい。

（六月五日）

外へ、外へ、

梅雨期に入りました。今年は雨量が少なからうと氣象臺では言つてゐますが、子どものためには、どうか雨の日を少なくしたいものです。しかし、どうしたつて雨が多いでせうから、一寸でも晴れ間を無駄にしないで、外で遊ばせませう。お天氣の日は部屋の中にゐて、雨が降ると雨をうらむのでは、どつちが惡いのか分りませんね。

（てる〳〵坊）